令和８年度　全国学力・学習状況調査について

加古川市立平岡北小学校

６年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査では、国語・算数の学力調査と児童質問紙による学習環境や生活状況を知る調査が行われました。その結果の概要をお知らせしますが、この結果をもって、児童の学力全体を評価できるものではありません。本校では、結果を分析し、今後の学習指導や学習環境の改善に生かしていきたいと思います。

国語科

全体の平均正答率が全国・県・市平均を上回っています。すべての問題において平均正答率が全国平均を上回っていました。評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに平均正答率が全国・県平均を上回っていました。

【特に良かったところ（県・全国との比較）】

- **学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。**
- **目的に応じて、必要な情報を見付けることができる。　読むこと**
- **情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。**

【努力が必要なところ（県・全国との比較）】

- **筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。　書くこと**
- **文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。（記述）　読むこと**

児童質問紙（国語科に関するもの）

多くの質問事項で、県・全国平均を上回っています。国語の勉強や授業に対して前向きな児童の姿が見えてきます。ただ「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか」の質問項目が全国平均を下回っているので、教師側の課題として児童が学習でつまづいているところを具体的に児童に寄り添った助言ができるようにしていきたいと考えます。また、読書についても本校は地の利があるので地域の図書館に行く児童は県や全国平均を大きく上回っていますが、学校図書館に週１回以上行く児童は全国平均を下回っているので、図書ボランティアや図書委員会の活動、さらに授業を通じて図書館利用の促進も図ることも重要な改善点だと考えます。

これらの結果から国語科では、言語活動を大切にした授業を通じて資質・能力を育むことが大切です。「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができる。（書くこと）」と「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。〈記述式〉（読むこと）」ための力を育むためには、協同的探究学習を取り入れた授業を継続的に行うことが有効であると考えます。例えば、文章を書く指導において、自分の書いた文章の構成を疑問や事実・事例等の区別をし、序論・本論・結論等の組み立てを意識して端的に表し、友達の文章構成と比較しながら目的に合った筋道の通った文章になっているかどうか意見を出し合い考えを深めることや、協同探求で、自分の経験を基に、読み取ったことを身近な生活にどのように役立てていくのか等の視点をもって、振り返りの文を書くことの目的や意義について考えを出し合って共有したり、教師からの追及型発問に対して自分の考えの正対について捉えられているかを確認したりすることが重要であると考えます。

また、児童の興味・関心・意欲を大切にした授業の構成を工夫し、肯定的な自己評価に結びつくような教師の言葉かけや授業改善に努め、自分の考えや意見を表現することが楽しいと感じられるような場の設定を引き続き増やしていきます。

算数科

全体の平均正答率が全国・県・市平均を上回っています。すべての問題において平均正答率が全国・県平均を上回っていました。評価の観点別に見ると、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」ともに平均正答率が全国・県平均を上回っていました。５領域において全て平均正答率が全国・県平均を上回っていました。

【特に良かったところ（県・全国との比較）】

- **整数と小数の減法の計算をすることができる。　思考・判断・表現**
- **体積の意味について理解している。　知識・技能**
- **基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができる。　知識・技能**

【努力が必要なところ（県・全国との比較）】

- **単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できる。　思考・判断・表現**
- **二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができる。　知識・技能**

児童質問紙（算数科に関するもの）

全ての質問事項で、県・全国平均を上回っています。算数の学習の意義を感じながら、一生懸命学習に取り組んでいることがわかります。

今回の結果において、無回答率がすべての問題において全国・県の無回答率より低く、児童が自分自身の考えをもって課題に主体的に取り組もうとした姿勢の表れであり、これまでの取り組みの成果であると言えます。これらの結果から算数科では、主体性を基盤としつつ、算数科における上位概念である「深い学び」へ向けた取り組みを充実させることが重要であると考えます。

例えば、協同的探究学習では、導入問題において、多様な考えを引き出して学びの本質へと向かう非定型の問題を設定することが大切です。そして、協同探究場面では「単位の大きさがいくつ分か」という算数の本質に立ち返ったり、乗法を用いて体積を求められる理由を児童同士で説明し合ったりする場面を設けるなど、学びの本質に迫ることが重要です。こうした学習を通じて、児童が互いに一人一人の考えのよさに改めて気づき、自己肯定感を一層高める効果も期待されます。

また、データを活用する力は、問題にもあるような６年生と１年生の交流会を開く際の準備物としてあやとりのひもが何本いるであるかなど生活の場面につながっています。国語の対策でも述べたように協同的探究で、学習したことを身近な生活にどのように役立てていくのか等の視点をもって学習の振り返りをすることの目的や意義について考えを出し合って共有していくことが重要であると考えます。

今後も引き続き問題を解決するために見通しをもち、筋道を立てて考えを進め、言葉や数、式、図、表、グラフを用いて、考え方や解決方法を理由付けしながら表現するという協同的探究学習を継続し、児童が自ら課題意識をもって取り組めるような授業づくりを進めていきます。そして、立式の方法や考えの根拠を言葉で説明できるように、計算ができ問題が解けるようになることに加え、本質部分に協同的に迫り理解を深めることができるような場の設定を工夫をしていきます。そして、「できた」「わかった」「こんな考えもできる」「みんなに説明できた」といった成功体験を重ねることで自己有用感や自己肯定感が感じられるような授業改善を推進していきたいと思います。

生活実態調査（児童質問紙調査より　百分率（%）は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童の割合）

《生活習慣》

・「朝食を毎日食べていますか」95.7%
・「毎日、同じぐらいの時間に起きていますか」98.9%
・「毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか 83.9%　（全て全国・県平均を上回る）

生活習慣については、全国・県平均を上回る結果となりました。起床時刻が一定している児童が 98.9%であり、生活リズムが身に付いている児童が多いことは素晴らしいことです。朝食も毎日食べている児童が 95.7%で安定した家庭生活が送れていることがわかります。高学年は、就寝時間を一定させることは難しいとは思いますが、就寝前にスマホを触らないなど睡眠の質を上げる工夫をすることや、朝食の内容や栄養バランスに気を付けることなどについて引き続き児童へ声掛けや等ご家庭でもお願いいたします。

《自尊感情》

・「自分にはよいところがあると思いますか」90.3%
・「将来の夢や目標を持っていますか」83.9%
・「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか」95.7%　（全て全国・県平均を上回る）

児童の中には自己肯定感や向上心が育っていると考えられますが、一方で、「自分には良いところがないと思う。」、「普段の生活の中で、幸せな気持ちにならない。」、「将来の夢や目標も持てない。」と自己肯定感が低い児童が、全国・県平均よりは少ないですが一定数います。今後も、失敗を恐れず挑戦していくたくましさを育てていくことが、本校が目指すところであり、日頃の授業や学校生活はもとより、体験的学習の充実やキャリア教育などを通じて、児童一人一人に寄り添い、注意深く見守りながら、将来の夢や目標に向かって積極的に行動する児童を育てていきたいと考えます。

《規範意識・思いやり》

・「授業や学校生活では、友だちや周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」91.4%　（全国平均と同等、県平均を上回る）
・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」97.8%　（全国・県平均を上回る）

これらの結果から規範意識の高さが見られます。今後も道徳科を中心に全教育活動を通して、心の教育に力を入れていきます。

《学校生活》

・「学校に行くのは楽しいと思いますか」88.2%
・「友達関係に満足していますか」96.8%
・「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」82.8%
・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」89.3%　（全て全国・県平均を上回る）
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」91.4%　（全国平均と同等、県平均を上回る）
・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」66.7%　（全国・県平均を下回る）

以上の結果から、全国・県平均と比較して、児童はおおむね学校生活に満足しているといえると考えます。ただし、昨年同様学校生活を楽しいと思えない児童や、先生や学校にいる大人に相談できにくい児童が一定数いることを肝に銘じ、今後もより良い人間関係作りと児童の自主性を大切にした教育活動を行っていきます。さらに、不安を抱えていたり、自信をもちにくかったりといった児童へのきめ細やかな声掛けも心掛けて、寄り添っていきたいと思っています。

《家庭学習》

・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、一日どれぐらいの時間、勉強をしますか」
（学習塾等の時間や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間を含む）

3 時間以上 17.2%	2 時間以上 3 時間未満 10.8%	1 時間以上 2 時間未満 30.1%	
30 分以上1時間より少ない 31.2%	30 分未満 8.6%	全くしない 2.2%	無回答 0

・「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日どれくらいの時間、読書をしますか」
（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

2 時間以上 6.5%	1 時間以上 2 時間未満 10.8%	30 分以上1時間未満 12.9%	
10 分以上 30 分未満 24.7%	10 分未満 8.6%	全くしない 17.2%	無回答 19.4%

家庭における学習習慣が身についている児童が多いと言えますが、全く家庭学習をしていない児童や家庭で読書を全くしていない児童が一定います。自分で計画を立てて学習するなど、今後も主体的に学習に取り組む姿勢を育成していけるよう、引き続き課題の出し方などを工夫していきたいと考えています。

《地域や社会への貢献》

・「地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか」82.8%
・「人の役に立つ人間になりたいですか」97.9%　（いずれも全国・県を上回る）

この結果から、今年度も地域や社会とのつながりを意識し、世の中の役に立ちたいと考えている児童が多く見られます。この気持ちがこれからも持続し続けられるよう、地域や社会とつながりを意識した活動を学校においても大切にしていきたいと思います。

《ＩＣＴを活用した学習》

・「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」

ほぼ毎日（1 日に複数の授業で活用）3.2%	ほぼ毎日（1 日に 1 回ぐらいの授業で活用）12.9%		
週3回以上 35.5%	週 1 回以上 37.6%	月 1 回以上 8.6%	月 1 回未満 2.2%	無回答 0

（ほぼ毎日の合計の割合は、全国・県平均を下回っている）

・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）」

3時間以上 3.2%	2時間以上3時間より少ない 2.2%	1時間以上2時間より少ない 7.5%		
30分以上1時間より少ない 23.7%	30分より少ない 29.0%	全く使っていない 16.1%	無回答 18.3%	

・総合的な学習の時間では、PC・タブレットなどの ICT 機器を使って、うまく情報を集めたり、整理したり、発表したりできていますか 81.7%　（全国・県平均を上回っている）

『活用についての自己評価』（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合）

・「PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」87.1%
・「インターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」87.1%

・「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか」76.3％
・「PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」84.9％　（全て全国・県平均を上回っている）

クロームブックが導入されてから４年以上経ち、授業時間以外での児童の使用頻度も増し、児童のＩＣＴ活用能力も向上していることがわかります。今年度は Metamoji2 や e-ライブラリが導入されました。また、Google Workspace for Education では年齢制限が撤廃され、教育向け「Gemini」が 18 歳未満の児童・生徒も利用可能となり、AI の利用もより身近なものとなりました。今後は、授業でのＩＣＴ機器の活用をさらに工夫・活性化し、児童の興味を喚起し、学びを深めさせていけるようしていきます。

《外国語の学習について》（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合）
・「英語の勉強は得意ですか」55.9％
・「英語の勉強は好きですか」62.4％
・「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか」37.7％（全て全国・県平均を下回る）
・「学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、PC・タブレットなどの ICT 機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）53.8％
（全国・県平均を上回る）
・「家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどの ICT 機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」

ほぼ毎日 6.5％	週3回以上 7.5％	週 1 回程度 25.8％	月 1 回程度 15.1％	月 1 回未満 18.3％	していない 23.7％

外国語の学習について今後児童に自己肯定感が芽生えるように授業改善を行っていきます。

《主体的・対話的で深い学び》（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計の割合）
・「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」68.8％
・「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」87.1％
・「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」78.5％
・「5年生までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていましたか」85.0％

総合的な学習
・「総合的な学習の時間では。自分で課題を立てて情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」85.0％

学級活動
・「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」83.9％
・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」82.8％

道徳
・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」90.3％
（全ての項目で全国・県平均を上回る）

以上の結果から、授業において、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む姿勢が身に付いてきていると言えます。また、「総合的な学習」「学級活動」の中で、自分で課題を立て、情報を整理し調べたことを発表する力や話し合い活動の意義を理解して解決方法を決める力が向上してきていることもわかります。今後は、本校の研究推進の柱となっていた協同的探究学習の成果を生かした授業改善の中で、自分の考えを友達と共有し合うことで、さらに考えを深めていけるような学習活動を繰り返し行うことで、主体的で対話的な深い学びの力を伸ばしていきたいと考えます。